



ウズベキスタン 企業訪問調査レポート【8】

OQ SAROY TEXTILE LLC ～ 繊維製品製造業 ～

ウズベキスタン共和国 - 基礎データ -

面積	44万8,900平方キロメートル（日本の約1.2倍）
人口	3,158万人（2016年初、出所：国家統計委員会）
首都	タシケント 人口279万人（2016年初時点）
実質GDP成長率	8.10%（2014年）
名目GDP総額	626億ドル（2014年）
一人当たりの名目GDP	2,046ドル（2014年）
対米ドル為替レート	2,311.40 ウズベキスタン スム（2014年平均値）

出所：JETROホームページ 国・地域別情報「ウズベキスタン基本情報 概況」（2016年6月更新）

調査月日 2016年1月

特徴

OQ社は個人投資家グループが共同出資し経営する企業である。カシュカダリア州に同州最大の工場を持つ綿糸・綿織物メーカーで、製品の品質も高い。設立当初は国策企業としてスタートしたこともあり、中央政府および州政府とのつながりが深く、生産設備に日本製機械が多いことも特徴といえる。

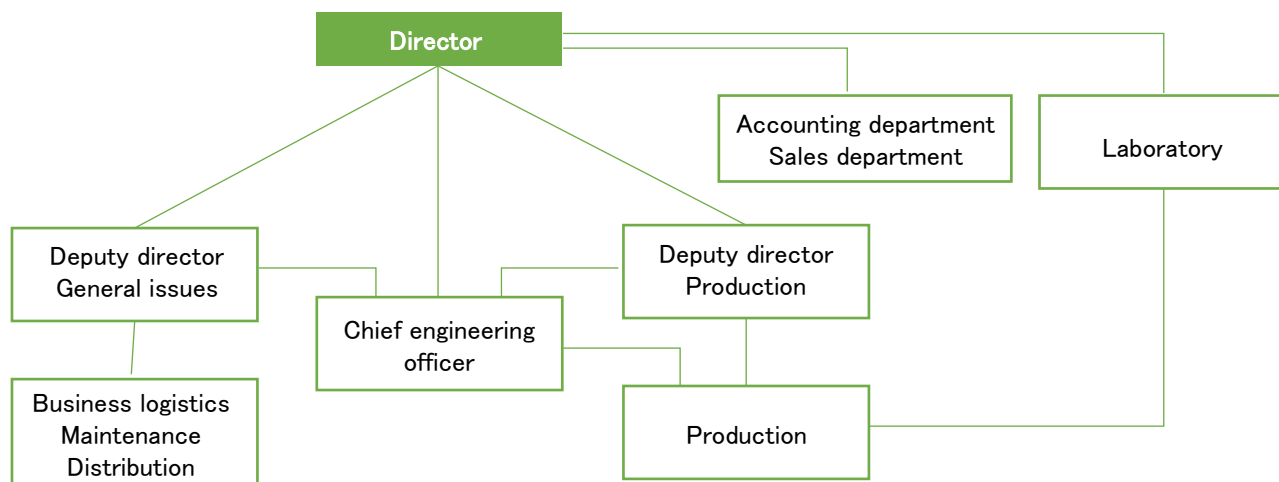
※同投資家グループはOQ社以外に靴下メーカーのTEXTIME LLCも経営。
（本レポート末尾の＜参考＞参照。）

1 企業概要

社名	“OQ SAROY TEXTILE” LLC（以下OQ社）
本社住所	Tashkent city, Shota Rustavelli St. 12A, business center “Grand”
工場住所	Kashkadarya region, Shakhrisabz city, Beruniy St. 44.
設立	1999年設立 2002年生産開始 2014年現在の組織形態となる
従業員数	600名(内管理部門30名、女性366名)
工場面積	敷地：125,000㎡ 建て屋：28,000㎡
主な製品	リング紡績、コーム紡績、梳き綿糸、綿織物(番手30～1、36～1、38～1、40～1)、綿メリヤス地
製造設備	主な保有機械の6割は日本製。その他巻き取り機、ニット織機、コンプレッサー、ボイラーなどはイタリア、米国、ベルギー、スイス、トルコ等の製品
標語	品質第一



2 組織図



3 沿革

OQ社は、1999年8月の内閣布告により、ウズベキスタンと日本、トルコによる国策企業としての色彩が強い合併企業Oksaroy Tukimachi Ltdとして設立された。資本金は約215億米ドルで、ウズベキスタン41.8%、トルコBursel社54.8%、日本3.4%の割合で出資された。工場の建設その他、生産立ち上げまでの経費は750億ドルで、その内の85%が日本の国際協力銀行からウズベキスタン中央銀行へのローンによって賄われた。

Oksaroy Tukimachiの工場は2002年より稼動に入ったが、2008年のリーマン・ショックに端を発した金融危機の影響を受けて筆頭株主のBursel社(トルコ)が倒産し、大統領令と内閣府布告により同社の持分がウズベキスタン中央銀行に移管され、社名も現在のOQ SAROY TEXTILE” LLCに変更、その後最新設備の導入等更なる近代化が図られた。

ウズベキスタン政府では2012年から国営企業の民営化を推進している。その動きを受けて、繊維産業参入を計画していた個人投資家グループがOQ社に着目し、2014年560億UZSで中央銀行から買取り、民間企業として現在に至っているものである。



4 製品供給先、原材料仕入元

製品供給先

国内

綿織物衣類、ニットウェアのメーカー

輸出先

ロシア等CIS諸国、トルコ、中国など

仕入元

国内大手の綿花会社であるUzpakhtasanoatexportから直接仕入れている。

5 OQ社の評価、今後の計画

OQ社はカシュカダリア州において最大の工場を持つ企業であり、国内でも企業のトップ10に含まれる。テレビCMなど特段の広告を行っていないが、同社製品のユーザーであるアパレルメーカー等の間では、同社製品の品質の高さが広く知れ渡っている。国内の経済および繊維産業が順調に発展拡大していることから、繊維産業に重要な位置を占める同社の今後の見通しは明るい。

今後の計画としては、国内市場の浸透を更に深めるとともに、海外輸出も拡大していく計画である。そのため、品質を落とさず生産コストを削減する方策を模索中である。また、現在製造している原糸原反に加え、アパレル完成品も手がけることを計画しており、2020年までに準備を終えるとしている。



<工場内の様子>

<品質検査>



6 社会貢献

2015年にOQ社が行った社会貢献活動は以下のとおり。今後とも活動を続けていく計画である。

- 政府の青少年スポーツ振興計画とSoglom Avlod Uchun基金(青少年のための医療・教育基金)による若年層健康増進プロジェクトに協力するため、5,000万UZSを出資して競技場や運動場の建設と運動用具の提供。
- 独立記念日等の祝日に際し、シャフリサブス市(OQ社工場所在地)の低所得家庭に1,000万UZS相当の食料品の提供。
- 視覚障害者を支援するシャフリサブス市の援助団体に、1,000万UZS提供。
- カシュカダリア州の地方政府が進める環境保護活動に協力するため、栗や松、モミなど様々な木の苗木500本を植樹。

7 日本企業への期待

OQ社では、現在生産している原糸・原反に加え、衣料品の生産(縫製)も手がける計画であり、この面で商談できる日本企業があれば歓迎するとしている。特に、品質を落とさず生産コストを下げる技術・ノウハウ、また、設立当初から主な生産設備は日本製の機械であるため、部品やメンテナンス・サービスの供給を引き続き期待している。

8 直面する問題

ウズベキスタンが順調な成長を保っているものの、直面する問題は少なくない。

リーマン・ショックに端を発する経済危機からの回復が未だ完全ではなく、昨今の原油価格下落によって、天然資源の輸出に依存しているロシアやカザフスタンなどでは、経済が低迷し通貨下落とインフレに見舞われている。いち早く一次産品輸出への依存から脱却を図り、産業の高度化に努めているウズベキスタンは、中央アジアの中でも一歩先んじているといえるが、ロシアやカザフスタンをはじめとする近隣諸国への輸出は鈍化し、逆にそれら国々の競争力のある製品がウズベキスタンに流入し、国内産業を圧迫している。

また外貨の送金についても依然問題がある。

9 競合他社

Plastex、UzTex、MargilanTexなど(全て国内企業)

【政府の繊維産業高度化施策】

ウズベキスタン産の綿は、世界的にも高品質と評価されており国際取引商品となっている。政府では、こうした国産綿の加工度と付加価値を高めて更なる輸出を図るべく、2015年から2020年の期間中、繊維産業を含む軽工業発展のために10億ドルを投じて約80の発展促進プログラムを実施する計画を推進中であり、中小加工メーカーも含めて老朽化した設備の近代化などに対し支援を行っている。

これを受けて繊維業界においては、一層の民営化推進と世界のファッショントレンドに合わせた製品の高級化やデザインの高度化を図り、既に2015年上半期中にニット製品を含む174のアパレル新製品を開発している。政府では、発展促進プログラムによって同国繊維産業の輸出能力を現在の1.8倍以上に拡大するとしているが、同プログラムの中心目的は、増加する国内人口の衣料品に対する需要を満たすことにある。



10 進出に当たっての留意点

ウズベキスタン繊維産業への外国人投資には、基本的に以下のようなメリットがある。

- ・原料、特に高品質の綿繊維を国内で豊富に調達できる。
- ・エネルギーコストが安く、質の高い労働力を安価に求められる。また、中央アジア諸国の中でも情報通信網の整備が進んでおり、銀行カードやATMも普及しているなどインフラが整備されている。

前項に述べたとおり、政府では繊維産業高度化施策を推進中である。従って、外国企業が繊維産業近代化に向けた投資、特に合併投資を行う場合、優先開発プロジェクトに認定され、減免税や補助金など中央政府の各種支援を受けられる。合併進出として以下のような形が考えられる。

- ・繊維加工準備工程、紡績、織加工、ニットィング、縫製、仕上げ、巻き取りその他の作業および品質検査にかかわる原糸・原反の老朽設備改替
- ・原糸メーカーへの織機、織物メーカーへの縫製加工機器導入
- ・コスト削減に向けた技術、ノウハウ提携
- ・建設が頓挫している国有繊維産業施設への合併参画
- ・ウズベキスタン側が建て屋その他のハードや光熱・通信等のインフラを提供し、外国企業が合併投資によりファイナンスを負担

外国人の直接投資に際する政府の基本方針は以下のとおり。

- ・合併企業立ち上げに要するファイナンスの大半が外国企業によって行われる場合、製品の8割を輸出に向けること。
- ・投資される資金はハード・カレンシーであること。
- ・ウズベキスタン側の企業がローンや保証の負担を負わないこと。
- ・中小企業(従業員100名以下)設立のための投資に欧州復興開発銀行やアジア開発銀行、米州開発銀行などのローンを利用する場合、金額が500万米ドルを超えないこと。
- ・複数の外国銀行からファイナンスを受ける場合にはウズベキスタン商業銀行の保証を取り付けること。

※繊維産業において合併プロジェクトを進めるに当たっては、政府の規制緩和・民営化・競争原理推進委員会にコンタクトし、充分なすり合わせを行うことが推奨されている。



<調査を終えて>

- ウズベキスタンは、かつてのシルク・ロードにおいて欧州とアジアの中間に位置し、高級な絹織物を双方に供給するなど、繊維織物生産に長い歴史を有している。また、同国は世界第6位の綿花生産国であるが、その大半は未加工の原料として輸出されてきた。しかし、ソ連邦崩壊と共に、独立年の1991年には、7%に過ぎなかった綿花総生産量に占める国内加工量の割合が、2015年には同35%に拡大するなど、繊維産業は急速に発展しており、2016年には更なる拡大が期待されている。
- 同国では、年間300万トン以上の綿花が生産されており、2015年の綿製品生産高は綿繊維100万トン、綿種160万トン、綿くず8万トン(詰め物や緩衝材用)に達する。綿糸は織物やニット製品に加工され、衣料品や靴下、下着類、医療用資材・被服や特殊用途の衣類となって市場に供給されている。
- 前述の通り、現在官民を挙げて繊維産業高度化に取り組んでいることは、外国企業にとってもビジネスチャンスと言えよう。

<参考>

TEXTIME LLC

本社住所: Tashkent city, Yunusabad district, Ming Urik St. 2

TEXTIME社はジザフ州に工場を持つ紳士用靴下メーカー。竹繊維に抗菌剤を添加した素材を使用し、防臭効果があり、香りの良い靴下を生産。アレルギーを起こさず環境に優しく、四季を通じて履き易く耐久性が高いことをセールスポイントとしている。設立間もないため、販売地域はタシュケントとサマルカンドの両市に限られているが、今後全国展開を計画している。タシュケント市内では大手スーパーのMakroと提携し、主に同スーパーのチェーン店を通じて小売をし、モニタリング・テストやディスカウント・セールなどで販売促進を図っている。原材料仕入元は、竹繊維は中国から、織物原反は国内市場で調達している。



<竹繊維靴下のロゴ>



<TEXTIME社の登録商標>



<TEXTIME社製品>